

I イベント開催時における 避難マニュアル (津波浸水区域内版)

イベント名称	〇〇〇フェア
開催日時	平成〇年〇月〇日 AM〇:〇〇 - PM〇:〇〇
開催会場名	〇〇〇(〇〇市〇〇町1-1-1)
主催者	高知県(委託先:〇〇株式会社)
作成日	平成〇年〇月〇日

住所(番地)も入れてください。

業務を委託している場合は委託先名も入れてください。

イベント開催の1週間前には完成させてください。

避難マニュアル作成のポイント

1 施設等管理者との打合せ

- まず、イベントを実施する会場の防災責任者を確認してください。
4 ページ「3 防災体制表」の「施設側防災責任者」の欄に責任者の氏名を記入してください。例えば、県民文化ホールのような公共の施設であれば、会場側の防災責任者が必ず決まっています。防災責任者が不明な場合は、会場の利用申し込み先に問い合わせてください。
- 防災責任者が確認できたら、必ず打合せを行います。
防災責任者との打ち合わせの際には、2 ページ「1 想定される津波の浸水深・到達時間等(南海トラフ地震発生時)」と3ページ「2 地震に関するリスクなどの把握」に書かれている各項目について確認し、それぞれ空欄に記入してください。
- また、5 ページ「4 設備、機材等チェックリスト」の物品を確認してください。
物品等が会場にあるか、どこにいくつ保管されているかを確認し、リストに記入してください。

2 避難場所および避難経路の確認

- 6 ページ「5 避難場所・避難経路図」に、避難経路を図で記入してください。
この避難経路図は、イベント開催時に関係者が確認できるようコピーを貼付するなどして、イベント開催場所から避難場所に迷わず辿り着けるようにしてください。
- 避難場所は、会場内に設定されている場合と、会場外に決められている場合があります。
- また、イベント開催前に、イベント会場から避難場所まで実際に歩いて、所要時間を測ってください。避難経路の周辺状況を知るために、避難誘導に係る全ての方が避難経路を実際に歩くことが必要です。

3 イベント主催者側での役割分担

- 4 ページ「3 防災体制表」に、役割分担を決めて記入してください。

4 避難誘導に関する手順の作成

7～8 ページに記載されている、「6 地震発生時の行動マニュアル」の係ごとの避難誘導手順については、次のとおり進めてください。

- ① 2 ページに記入した「想定される津波到達時間」を、各係の「津波到達」という行の左側に「時間の目安」を記入してください。
- ② 次に、この時刻から逆算して、各係の個々の「行動」を地震発生からどのくらいの時間でできるかを検討し、「時間の目安」に記入してください。
- ③ 記入した「時間の目安」までにそれぞれの行動ができるかも合わせて確認してください。間に合わないと思われる場合には、途中の手順を省略することも検討してください。

1 想定される津波の浸水深・到達時間等(南海トラフ地震発生時)

想定される浸水深 (最大クラスの津波)	5 m			
想定される津波到達時間 (浸水深30cm)	30分			
避難場所 会場からの距離と収容人数を踏まえて避難場所を検討してください。		場所	距離	収容人数
	1	〇〇小学校	〇〇〇m	〇〇〇人
	2	△△高校	△△△m	△△人
	3	××ビル	×××m	××人
津波以外の危険性や、その他留意事項	海へ通じる道は津波遡上の危険があるため避難時に使用しない。			

【記入のしかた】

想定される津波の浸水深 想定される到達時間	高知県 Web サイトで「南海トラフ地震対策課」のページに掲載されている高知県防災マップにイベント開催場所住所を入力し、上記のことについて確認・記入してください。 【参考】 高知県Webサイト:南海トラフ地震対策課「【高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について」 http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/010201/nannkai-3.html
最寄りの避難場所	高知県防災マップを活用し、浸水しない避難場所を調べて記入してください。参加者数や収容可能な人数、距離を考慮し、避難場所を決めてください。 (なお「避難場所」とは、津波などの災害から一時的に避難を行う場所であり、一定期間生活することを想定された「避難所」とは異なります。)
津波以外の危険性や、その他留意事項	地震で倒壊・破損するおそれのある建造物、孤立する可能性など、イベント開催場所において懸念されるリスクを記入してください。

2 地震に関するリスクなどの把握

建物を使用しないイベントの場合は、①②の確認は不要です。

(1)会場におけるリスク

確認項目		確認結果	左記確認項目が「×」の場合、具体的内容を記入
		○/×	
①	使用する建物は新耐震基準に基づいている。	-	フェアは屋外で開催する。
②	建物内で設備や機材などの倒壊、落下、揺れによる移動などが発生するおそれのある場所はない。	-	フェアは屋外で開催する。
③	地震によって火災や爆発などが発生するおそれのある場所はない。	○	-
④	火災が発生した場合に、燃えやすいものが多い場所はない。	○	-
⑤	会場周辺で津波の到達以外に、液状化などのリスクが高い場所はない。	○	-
⑥	その他、施設等管理者から説明を受けたリスクや注意事項はない。	○	-

建物を使用しないイベントの場合は、(2)①~④の確認は不要です。

(2)地震対策の準備状況

確認項目		確認結果	左記確認項目が「×」の場合、具体的内容を記入
		○/×	
①	非常用放送設備が用意されている。	-	-
②	会場内で非常口や避難経路が決まっている。	-	-
③	スプリンクラーや消火栓、消火器などの消火設備・機材がある。	-	-
④	その他、施設等管理者から説明を受けた事項はない。	-	-

3 防災体制表

業務内容	責任者/氏名	担当者/氏名
★全体統括係 全体統括……人員配置の変更・各係への指示など 情報収集……津波の規模・到達時間等の情報収集 外部との連絡……関係者・関係機関への連絡	〇〇係/△△	〇〇係/▲▲
★避難誘導係 避難の呼びかけ……館内放送、声かけなど 避難場所への誘導……誘導、要配慮者への援助 避難状況の確認……逃げ遅れた方の確認など	△△係/□□	△△係/■ ■
救護係 負傷者の応急手当 閉じ込められた方などの機械・器具による救助 負傷者等の避難の援助など	〇〇係/■ ■	〇〇係/□□
外国人対応係 日本語が分からない外国人への避難の呼びかけ 避難誘導 逃げ遅れた方の確認など	××係/★★	××係/☆☆
施設等防災責任者 イベント会場の施設等防災責任者名を確認して記入する	〇〇ホール 館長/●●●●● TEL: **-****-****	〇〇ホール 総務/△△△△△ TEL: **-****-****

【記入のしかた】

- 主催者のスタッフ(担当者)が少ない場合などは、一人の職員が複数の役割を担うこととなります。その場合にも、避難判断・誘導に不可欠な★印の役割は必ず決めておきます。
- 事前に決めた体制が確保できない場合や、事前に決めた体制では十分な対応ができない場合には、「全体統括係」の指示により、役割分担を変更します。
- 外国人対応係は、英語、中国語、韓国語を中心とした言語で対応できる担当者を複数名選出しておくことが望ましいです。
- また、あらかじめ多言語表記した避難経路図や指差し会話シートなどを用意しておく、緊急事態において対応しやすくなります。

避難判断・誘導に不可欠な★印をつけた機能を有する設備・機材は必ず準備してください。

館内放送設備など屋外イベントに適さない設備・機材は、同様の機能を有する設備・機材に読み替えて準備・確認をしてください。

4 設備、機材等チェックリスト

区分	品目	保管場所	数量
★情報	緊急地震速報受信機	〇〇フェア総合案内テント	1
	防災無線（放送内容が聞こえるか）		-
	携帯テレビ（予備の電池を忘れずに）		-
	携帯ラジオ（予備の電池を忘れずに）	〇〇フェア総合案内テント	1
	電話・エリアメール	〇〇フェア総合案内テント	1
★避難	ハンドマイク・メガホン・ホイッスル	〇〇フェア総合案内テント	1
	懐中電灯（予備の電池を忘れずに）	〇〇フェア総合案内テント	1
	ヘルメット・防災ずきん	〇〇フェア総合案内テント	5
	履物類		-
	非常口のマスターキー	屋外開催のため非常口なし	-
設備	館内放送設備		-
	非常灯		-
援助	車いす	開催場所管理事務局	1
	担架、ストレッチャー		-
	松葉づえ		-
応急手当	傷薬・消毒薬	〇〇フェア総合案内テント	2
	三角布	〇〇フェア総合案内テント	10
	ガーゼ・脱脂綿・油紙	〇〇フェア総合案内テント	10
	包帯	〇〇フェア総合案内テント	10
	はさみ	〇〇フェア総合案内テント	2
	絆創膏	〇〇フェア総合案内テント	5
救助	バール・鉄パイプ		-
	スコップ・つるはし		-
	ハンマー		-
	のこぎり		-
	ロープ	開催場所管理事務局	1
	ハシゴ		-
	軍手	開催場所管理事務局	5

【チェックリストの留意点】

- 避難判断・誘導に不可欠な★印をつけた機能を有する設備・機材は必ず準備してください。
- 利用する会場に上記のものがあるか確認し、保管場所および数量を記入します。
- 会場が屋外の場合には、上記のものが全部あるとは限りません。会場やイベントに合わせて必要なものを準備してください。
- 電源や作動状況、品質期限等も確認してください。

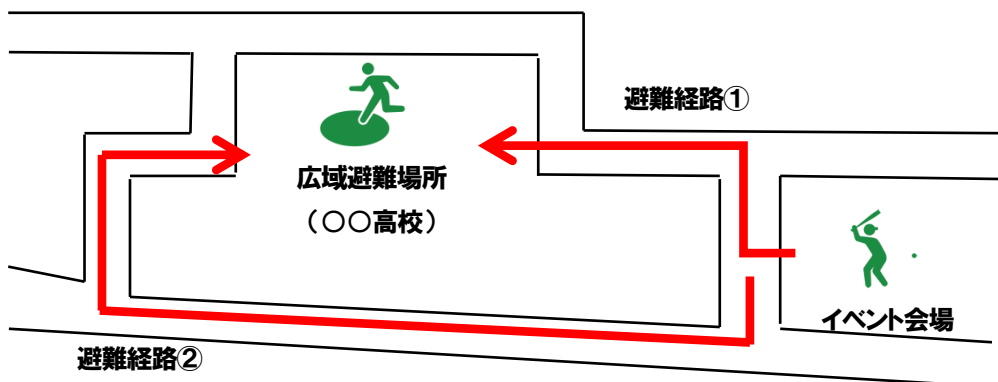
5 避難場所・避難経路図

【注意点】

- 経路が遮断された場合に備えて、イベント想定参加人数に合わせた複数の避難経路を設定します(参加者数を考慮し、収容できる避難場所をあらかじめ市町村の担当者と協議してください)。
- 避難場所と避難経路については、全ての係員が把握することが必要です。必ず確認してください。



避難経路図作成イメージ



6 地震発生時の行動マニュアル

※ 標準的な内容を記入しています。会場の状況に応じて内容を適宜変更してください。

(1) 地震発生時（地震による揺れが発生しているとき）＊1～2分間

- 参加者に対して、「慌てず、まず身の安全を確保する」よう呼びかけてください。
- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難するよう促します。
- 外国人にも分かるよう、可能な限り、英語など多言語による呼びかけを行います。

(2) 最初の揺れが収まったとき

- 地震の最初の揺れが収まったら、参加者に「地震が発生した」こと、「現在、地震・津波などに関する情報を収集しており、状況が分かり次第、情報提供を行う」ことを速やかに呼びかけ、「今、何が起きているのか」を説明します。
- 館内外放送の使用については、施設管理者の指示に従ってください。
- 館内外放送などの設備が停電等で使用できない場合は、メガホンやハンドマイクなど使用可能なものは全て活用して呼びかけを行ってください。
- 呼びかけは、意識的にゆっくりと行うように心がけてください。

津波避難は一刻一秒を争います。迅速に避難判断をし、避難指示を行ってください。

○全体統括係

時間の目安	行動	備考
地震発生直後	・ 情報収集 ・ 避難実施の有無の判断 ⇒避難の必要性がない場合対応終了	・ 地震の揺れの程度によっては、情報収集よりも、避難を呼びかけることを優先する。
分後	・ 各担当の状況確認	・ 必要に応じて役割分担の変更指示
分後	・ 各担当へ避難開始を指示 ・ 自身も避難場所へ移動開始	・ 各担当に対して避難開始を伝え、自身も避難する。
分後	・ 避難場所への移動完了	

P2 に記入した「津波到達時間」までに避難が完了するように逆算して各対応事項の開始時間を検討してください。

津波避難は一刻一秒を争います。避難判断を受け、迅速に避難誘導を行ってください。

○避難誘導係

時間の目安	行動	備考
地震発生直後	<ul style="list-style-type: none"> 参加者への呼びかけと状況確認 避難方針確認 ⇒避難の必要性がない場合対応終了	<ul style="list-style-type: none"> 参加者に落ち着いて行動するよう呼びかけるとともに、負傷者の有無を確認する。
分後まで	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所への誘導開始 ※一定時間、誘導を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> 人数が少ない場合は、自身が先頭に立って参加者を誘導する。 ※後方からの指示では、戸惑って動けないため、必ずスタッフが先頭に立つ。 誘導係が複数確保できる場合は、階段や曲がり角などのポイントに人を配置する。 介添が必要な方がいる場合は、可能な範囲で援助する。少人数の場合は、周りの人々に援助を依頼する。
30分後	<ul style="list-style-type: none"> 津波到達 	

P2に記入した「津波到達時間」までに避難が完了するように逆算して各対応事項の開始時間を検討してください。

津波避難は一刻一秒を争います。負傷者等を連れて迅速に避難場所へ移動してください。

○救護係

時間の目安	行動	備考
地震発生直後	<ul style="list-style-type: none"> 救護用の機械器具の持ち出し 	
分後	<ul style="list-style-type: none"> 避難方針の確認 ↓ 避難の必要性がない場合は対応終了	
分後	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所へ移動開始 	<ul style="list-style-type: none"> 負傷者等がいる場合は援助する。
分後	<ul style="list-style-type: none"> 津波到達 	
30分後	<ul style="list-style-type: none"> 避難場所(避難の必要がない場合はその場)で負傷者の応急手当 	

P2に記入した「津波到達時間」までに避難が完了するように逆算して各対応事項の開始時間を検討してください(応急手当は津波からの避難が完了してから対応します)

○外国人対応係

- 日本語が分からない外国人がいる場合は、外国語を話せるスタッフが付き添い誘導します。
- 外国語対応できるスタッフがいない場合は、参加者の中で外国語を話せる人を探し、誘導や援助を要請します。イベントツアーに同行している添乗員やガイドに協力してもらえる可能性もあります。
- 多言語表記のある非常時の避難経路図や指差し会話シートなどを活用して避難を促します。